

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 SIL 札幌日本語学校

1 事業の趣旨・目的

緊急時（地震・火事・事故・病気など）や生活の場において外国人生活者が困った時（冠婚葬祭・ゴミ問題・外国人登録・ライフラインなど）を想定し、日本語ボランティアとして手助けできるようにワークショップ形式の実践的な研修を行い、その基本を身につける

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月25日	SIL札幌日本語学校	木本みゆき 島 治美 外山 静江 Petia 佐々木 鈴木 博子	① 具体的な講座内容 検討 ② 募集方法の検討 ③ 講座日程確認	講演者の選定、講座の方針、内容検討確認、会場選定や周知方法について討議。募集チラシにどのような項目を盛り込むか、どのような周知方法があるかなどについて検討。
8月29日	同上	木本みゆき 島 治美 外山 静江 Petia 佐々木 森地 優子	① 募集経過報告 ② 講座内容・使用教材について ③ 講座実施会場について	・外部有識者講演依頼の日程及び講演内容の確認 ・講演のために追加で会場を確保することになった。
9月26日	同上	木本みゆき 島 治美 外山 静江 Petia 佐々木 森地 優子	① 参加者のボランティア活動の経験について ② 講座内容の打ち合わせ	参加者のボランティア活動経験と今後の活動希望を踏まえての内容を講座に盛り込むことを確認した。

11 月 19 日	同上	木本みゆき 島 治美 外山 静江 Petia 佐々木 森地 優子	① 模擬実習の手順、 内容、振り分けなど ② 受講生の様子及び リクエスト	わかりやすい日本語で 実習をするための指導 ポイントなどを検討
平成 23 年 1 月 14 日	同上	木本みゆき 島 治美 外山 静江 Petia 佐々木 森地 優子	① 講座状況 特に模 擬実習について ② アンケートについて ③ 次年度へ向けて	模擬実習の内容とその 準備の手順を確認 ・アンケートに盛り込む 内容の検討など ・全 18 回の講座のフィードバック

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 「こんな時どうしますか」

(2) 養成講座の目標

道内に在住している外国人に生活者としての日本語・日本生活文化を指導、サポートするため、緊急時の情報を題材にボランティアとしての基本的意識を確認し、基本的な指導スキル獲得を目指した。

(3) 受講者の総数 12 人

(4) 開催時間数(回数) 54 時間 (18 回)

(5) 参加対象者の要件

市内・道内在住の退職者と日本語ボランティア希望者（日本語母語者・非母語者を問わない）

(6) 受講者の募集方法

道内各市町村への募集要項配布・市内公共施設にて 及び 市内、札幌近郊各大学国際交流センター、日本語ボランティアグループにも持参、もしくは郵送、ネットでの送信、配布

(7) 研修会場

札幌市民ホール、かでる27

(8) 使用した教材・リソース

当校作成の『ボランティアのためのハンドブック』、『みんなの日本語』、やさしい日本語など

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月2日 9:15～ 12:15	ーボランティア活動と日本語指導 ボランティアの実情について、やさしい日本語、	SIL 札幌日本語学校 島 治美 札幌子供クラブ 三浦正博	9名
10月9日 17:15～20:15	①外国人教師による 外国語の体験授業 ②講演 高野康夫氏 ー異文化コミュニケーションー	北海道大学工学部客員教員 佐々木 ペティア (株) エミネ 高野康夫 島 治美	9名
10月16日 17:15～20:15	緊急時の語彙について考える① ー救急医療・火事の語彙 「て形」について 語彙コントロール	にほんごボランティア「窓」 コーディネーター 木本 みゆき	7名
10月23日 11:00～15:00	講演 札幌危機管理対策室 出前講座 緊急時の語彙について考える②ー地震・水害・避難	札幌市危機管理対策室 斗内 邦裕 木本 みゆき	7名
10月30日 13:00～16:00	講演 「ホームステイ協会」札幌国際プラザ ー札幌のホームステイの現状ー 緊急時の語彙について考える③ー紛失・破損	札幌市ホストファミリー協会 稲垣 昌治 木本 みゆき	7名

11月6日 13:00～16:00	暮らしの中の表現 <1> “外国人が 受ける苦情につい て。苦情の言い方 について”	木本 みゆき	9名
11月13日 11:00～15:00	講演 札幌中央警 察署 —事故と犯 罪について 緊急時の語彙につ いて考える④ 防犯対策 挨拶”お礼”につ いて	札幌中央警察署 生活安全課 大道 妙恵 島 治美	5名
11月20日 13:00～16:00	暮らしの中の表現 <2> “レストラ ン、スーパー” 返品の際の言葉 レシート返品・店員 の言葉を理解する 店員の敬語・敬語の 文法	島 治美	9名
11月27日 13:00～16:00	模 擬 実 習 - ① 『病気表現を教え るⅠ』 問診票を使 用して 内科、歯科、外科	島 治美	7名
12月4日 11:00～15:00	講演 —国際結婚の諸問 題— 暮らしの中の表現 <3> マナー ” 葬式、お悔やみの言	ウエルカム・ハウス マイレット神父	6名

	葉”	木本 みゆき	
--	----	--------	--

12月11日 13:00～16:00	暮らしの中の 表現<4> マナー “慰めの言葉”	木本 みゆき	6名
12月18日 17:45～20:45	模擬実習-② 日本のマナー：訪 問、宴会、結婚披露 宴出席	木本 みゆき	7名
1月8日 17:45～20:45	お知らせ文を言い 換える〔1〕 —学校のお知らせ 「インフルエンザ」 実習項目について の検討	木本 みゆき	6名
1月15日 13:00～16:00	模擬実習-③ 『紛失時の対処 法』『冬季のトラブ ル』 実習の感想と反省	木本 みゆき	7名
1月22日 13:00～16:00	お知らせ文を言い 換える〔2〕 —町内会の回 覧板：除雪問題につ いて	木本 みゆき	6名
1月29日 13:00～16:00	模擬実習-④ 「防犯対策」 実習の感想と反省	木本 みゆき	6名

2月5日 13:00～16:00	次回最終実習のための総合演習	島 治美	7名
2月12日 13:00～16:00	模擬実習-⑤ 『災害時の情報を教える』 実習の感想と反省	木本 みゆき	8名



(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

7名より回答が寄せられた。特に外国人教師による外国語の体験授業は好評であり、又日本語教師の体験談も聞きたいという要望もあった。災害時の外国人の手助けを目的とした当講座の趣旨の理解についてはともかく、参加者の多くは「日本語を教える」というボランティア教師としての意識が強いようだった。しかし3.11大震災と津波災害を経験した後には、参加者より口頭でこの講座の主旨を再認識したとの声が寄せられた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

外国人生活者にとって困るであろう事項を受講者全員で検討し、その対処のための情報を確認し、どのような日本語を使用して対処法を伝えていかなど全18回にわたり研修した。

当初は「教える」という意識が強く、指導を受ける外国人の理解を超えた内容が実習に盛り込まれていたが、回数を追うたびにわかりやすい簡潔な内容を提示できるようになった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

札幌市内のボランティアグループは横のつながりが希薄なようであり、又一つのボランティアグループでも各々個人での動きが多いようである。今後小規模でも横のつながりを作り、支援のために連携をしていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

講座参加者がお互いの所属グループなどの情報交換をする場となった。又3・11後には、特に災害時の情報・取るべき行動などについての確認の重要性が他事業の企画などにも認められてきたようである。次年度は協力し合っの講座開講の可能性も視野に入ってきた。

② 研修後の人材活用

今回の受講生が、単に日本語の教科書を教えるのみならず、ボランティア活動の場でも尊い命を守るべく、災害時の対処の仕方などを頭の片隅において活動ができるようになっていると推測される。

(12) 今後の課題

札幌市内には研究職の外国人の割合が多いため、受講生には、生活に密接につながったサポートより、日本語学校での教師職をイメージした「教え込む」という活動意識に捉われることが多かったように見受けられた。今回の講座においても日本語ボランティアとしての基本的な立場とそのありようを再確認する必要性があった。今後はその点も課題として講座に盛り込んで行きたい。

文化庁委託事業

平成 22 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

日本語ボランティアのための実践的研修「こんなときどうしますか」 第Ⅱ期

緊急時や日常生活の場において、手助けが必要な時、困った時に使う日本語、特に生活の語彙をどう扱い、どのように教えていくか。平成 21 年度の講座を発展させた内容を網羅する。日本語ボランティアとして自信を持って指導出来るようになるためにワークショップ形式の実践的な研修を行う。

受講対象者 日本語ボランティア実経験歴 2 年以上、直接法でのボランティア経験者が好ましい
(日本語母語者・非母語者を問わない)

期 間 平成 22 年 10 月 2 日 ～ 平成 23 年 2 月 12 日 (毎週土曜日、全 18 回、1～4 pm)

会 場 札幌市民ホール会議室 もしくは市内中心部公共施設を予定

受 講 料 無 料

定 員 15 名 (希望者多数の場合は抽選)

後 援 札幌市・札幌市教育委員会・(財)札幌国際プラザ

★ 申し込みは「受講申込書」にご記入後、郵送にて次の宛先までお申込みください。

なお、ご記入いただいた個人情報に関しては、この講座のみに利用いたします。

<郵送宛先> 〒060-0062 札幌市中央区南 2 条西 18 丁目 291 ベル医大前 1F

SIL 札幌日本語学校 (担当 島)

<問合せ先> 同上 (担当 島) 080-3237-1101 / 鈴木(夜間) 080-1976-1950

<締め切り> 8 月 25 日 必着

.....

受 講 申 込 書

氏 名: _____ (昭和/平成 年 月 日生) (男・女)

住 所: _____

連絡先: Tel: _____ 携帯電話: _____

Fax: _____ E-mail: _____

日本語ボランティア活動について

所属先(なし・あり → 名称: _____)

420 時間養成講座修了年 (_____) ・ 日本語教育能力検定試験合格年 (_____)

経験年数(3 年未満・3 年～10 年・10 年以上) 経験回数(10 回未満・10 回～19 回・20 回以上)

主たるボランティア活動(日本語指導・生活指導・その他 _____)

指導対象者出身国(中国・ロシア・欧米・その他 _____)

今回の講座にて特に学びたい内容

日本語指導 _____

生活指導 _____